

令和7年度第5回グアム日本人学校 学校理事会議事録

開催日：2025年9月12日 時間：午後5時00分～午後7時00分（ChST） 場所：学校会議室およびオンライン 出席者（議事録上敬称略）：富江、小和野、時任、安居、許 （オンライン参加）木村、武石、伊藤、渡辺 （オブザーバー参加）福士 小林	欠席者：柳澤 議長：小和野 記録：AI
---	--

定数確認：理事の定数参加により本会議は正式に開催されることが確認された。記録作成：AIで議事録作成へ切り替えする事とした。

1.1 財務 予算採算報告（時任）

- 収入の進捗
 - 日本語会話事業 12月分までの授業料回収完了
登録55名（予算40名計画に対し+15名）で予算比+8,250ドルの増収
 - 日本語会話クラス構成：7クラス、少人数制（大人最大15名、子ども最大12名）稼働率：一部クラス満席だが全体に受け入れ余地あり
 - 出張授業（新規）受講料一括回収済みで+4,125ドル増収 今後さらに2件の新規顧客獲得を目標
- 支出・コスト
 - 人件費
出張授業開始に伴い年間+825ドルの増加。他人件費の見直しで年間約2,000ドル削減見込み。ネットでは概ね影響相殺。
 - 一般管理費
賠償責任保険（Liability）：年間+1,500ドル（出張場所拡大でも固定）
エアコン関連：故障増で清掃・購入費が予算超過見込み。管理会計上は期中に費用として処理し、期末に必要な分を資産に振り替える方針。
- FEMA関連支出・会計方針（修繕）
第1期支払い18,000ドル実行済み
会計処理方針の整理：
 - 修繕の性質として、原状回復が目的であるので、費用計上するのが適切（小林）
 - 現状の18,000ドルはBS計上済みだが、原状回復性が高く費用計上へ修正する方針で合意
 - 補助金の計上時期は2年後の見込み。
 - 支出と支払いに2年もの時差が生じる。特に支出が先であり損が先行し、2年後に益計上をすることとなるが、まずFEMAの支払いは100%行われるのか、また、安定経営のためには、未収を同時期に立て、損益のねじれを解消したほうが良いと思うが如何（武石）FEMAは支出額の9割を負担してくれるため、9割は2年後に戻ってくる。（時任）

- 今次の台風 Mawar に対しての FEMA の活用であるので、他の学校や、他のホテル等ではどのように費用と補助金の泣き別れるタイミングの計上を行っているのか？（武石）
- 他社では、基本的にこの泣き別れが生じている。（小林）
- 受領するまで収益認識条件が満たされないので、受領時に一括収益計上が会計原則上は妥当（小林）
- 透明性重視の観点から、恣意的な見せ方回避の観点からも適正処理を優先する事で合意した。
- キャッシュフロー見直し
 - 現状のキャッシュベース損益は約 2 万ドルの赤字見込み（予算は 55K の赤なので約 3 万ドルの改善）
 - 日本語会話・出張授業の拡大での巻き返しを継続（出張 2 件追加獲得を数値目標化）

1.2 プレジデント報告（時任）

人事・評価制度／給与テーブル見直し

- 全体方針
 - 目的：採用・定着・公正性・モチベーション向上、財務健全性との両立
 - 対象：全 14 職種の Job Description 整備を先行し、その後に給与妥当性検証
- 給与額のベンチマーク・検証
 - 外部比較と公的データを活用する。
 - 外部比較は、他校への匿名アンケート（年俸・時給レンジ、パート賃金など）を実施し、集計結果は返礼共有する。カトリック校は寄付構造が異なるため調査対象外
 - 公的データ：政府系の職種別平均賃金データ（州別）を参照（伊藤理事が情報共有）
 - 内部検証として、CPI 連動ルールの導入検討（例：CPI が 3%以上上昇時は理事会で再評価）
 - 武石理事より、現地採用給与基準推移（2003-2022 年）の報告があった。同報告の要旨としては約 20 年間グアムの CPI は 1.9 倍（190%）、最低賃金は 1.8 倍になっているにも関わらず時間給教諭は 2015 年に 4.9%（1.049 倍）の賃金改定のみであったことから、2023 年に賃 10%の賃金改定を審議したが、最終的には 5%のベースアップが承認されたというもの。
 - 同資料の最新の情報にアップデートをお願いした。
- テーブル設計の方向性
 - 時給職（補習校等）

長期在籍を促す年数レンジ型テーブル（例：初心者～21 年）を基軸にしつつ、実態賃金は外部比較で見直し年数絶対主義の弊害回避のため、等級制の導入も選択肢（年数=目安、能力で初期等級調整可）
 - 月給職（フルタイム）

組織目標と個人目標の整合を重視し、評価制度を導入
 - テーブルは「経験年数 × 評価係数（±%）」の掛け合わせ型など、下振れ急落を避ける範囲での変動

評価運用方法に関しては、年 2 回評価実施、賃金反映は年 1 回など安定性にも配慮した運用方法を検討する
 - 手当設計：主任手当・資格手当などで職務差をカバーし、テーブルの乱立は回避

- 留意点・論点
 - 時給と月給の相対賃金バランス
 - 経験の定義（社内外経験の取り扱い）と等級到達ガイドラインの明文化
 - 評価分布と上限・下限（例：上方+5%、標準 0%、下方-2%など）を用いて、生活の安定性を確保すること
- タイムライン
 - 10 月に臨時理事会でドラフト（テーブル案・額面含む）審議
 - 11 月から次年度予算編成のため、10 月承認を目標
 - Job Description は 10 月の審議に間に合わせる前提で整備を急ぐ

学費支援（ファイナンシャルエイド）検討

- 背景・目的
 - 全日制からの退学理由に「授業料負担」が複数件
 - 補習校でも「費用が高く通えない」声
 - ミラノ日本人学校では授業料改定と同時に世帯収入連動のエイド導入し、一定の成果をあげている
- 検討中のスキーム
 - 授業料減額（3 割～5 割）を想定ターゲットはローカル家庭含む
 - 奨学金（無利子貸与）や利息補助（市中金利の利息分を学校/支援元が負担）とのミックス、日本人会の寄付（年 6 万ドル）を原資に、選考・審査を日本人会側で担う委託モデル案などのアイデアが出された
 - 既存の外部奨学財団・機構の活用周知はする方向で検討する
- 留意点
 - 公平性・透明性（対象限定による不公平印象の回避）
 - 規模感試算（駐在・自費世帯の内訳、減額率に応じたカバー人数、財源持続性）
 - 基準設計（所得水準、家庭状況、作文など定性的要素の扱い）
- 方針
 - 今期中の拙速導入は避け、制度設計・ベンチマーク・財源試算を進めた上で再審議する事とした

学校満足度（学校改善）アンケート刷新

- 目的
 - 年次で継続・比較可能な形で顧客満足（改善指標）を定量・定性で可視化
 - 次のアクションに直結する設問設計（逆算発想）
- 設計の要点
 - 属性設問（学年、家庭内使用言語など）を導入し分析精度を向上
 - 「駐在か否か」より「何年以内に帰任予定」など答えやすい表現に修正
 - 本体設問（ドラフト）
 - 教育内容（少人数の手厚さ、課題の適切性、英語・日本語教育）
 - 保護者コミュニケーション（尊重実感、情報量・質）
 - 行事・課外、進路指導（低学年家庭も情報提供の受容度を評価）

- 自由記述 各セクションに自由記述欄を配置
- 追跡ヒアリングの同意欄を設け、必要に応じ面談実施
- 運用
 - 最低 5 年間は同一設問で継続し、年次推移を評価
 - 補習校は別設計（ニーズ把握に基づくカリキュラム最適化軸）
 - 前年活用例：英語満足度の低さを受け、英語カリキュラムを見直し
- 方針
 - 校内管理職でアンケート内容を確定させる

生徒数・運営トピックス

- 在籍変動
 - 全日制：転出入の結果、増減-1（日本帰国 2、ローカル転校 1、新規 2）
 - 補習校：増加傾向
- 補習校運営
 - 校内日本語徹底の再周知（英語使用抑制、授業中の態度・持ち込み飲食等ルール明確化）
- イベント
 - 友達ラン・ファミリーファンデー・音読発表会・10 月音楽発表会に向け PTA が実行委員参加
 - JAPAN SUNDAY：学校ブース出展、生徒発表（枕草子等）

2.1 審議 | 傷害保険の保護者負担について

[権限表 No. 51 財務 予算総額外経費支出]

- 昨年までは本費用は学校が費用負担をしていた。赤字改善のために今年度の予算策定時に受益者負担としたいとのことから、個人負担とすることで理事会承認を得ていた。しかしながら 7 月の JOES の事務長会議で保険業者に確認したところ、以下の課題があることが分かった。
- 現状の課題
保険金の支給に際して、日本国内口座が必要となり、外国籍保護者の利用障壁がある。グアムの保険会社に同様の保険はなく、やむを得ず JOES が紹介してくれている本保険を付保している。JIAG ではプラン 1、一人当たり年間保険料が 5528 円を児童生徒全員分 \$4424 を支払っている。しかしながら、少額通院補償（1 日 3,000 円）は実用性低く申請実績乏しい。年度当初の保護者への周知不十分であった。
- 保障内容の要点（参考）
通院：1 日 3,000 円、入院：1 日 5,000 円、死亡・後遺障害：最大 1,500 万円（プラン差あり）
- 学校過失は対人賠償（Liability, 100 万ドル）でカバー。過失なき重大事故は本傷害保険が実質的な備え
- 審議結果
今年度は、傷害保険料 \$4424 は学校負担とすることを全会一致で承認

予算影響：収入計上（保護者負担）を取りやめ、授業料で吸収（支出側は6月に支払済）

- 对外広報：「加入しています」と事実を周知（支払可否は保険会社判断である旨注意）
- 今後
来年度以降の加入継続可否・プラン見直しを再検討（現地イベント保険等の適用可能性も調査）

3.1 PTA（全日制）より報告

柳澤理事欠席の為、報告なし。事前にPTA役員会議事録の提出があった。

3.2 PTA（補習校）より報告

PTA 活動報告（8-9月）

- Tシャツ販売 受注100枚超で発注済み、納品は9月末～10月頭予定
- 会費・生徒数対応 補習校の途中入学者の会費回収・在籍管理を学校と連携
- 役員会 議事録は次回共有予定
- 学校行事支援 各イベントの実行委員参加、音楽発表会の運営支援

3.3 その他

- 政府支援の進捗（領事館より）
 - 全日制：支援率45%で決定通知（昨年同様）
 - 補習校講師6名・在外教育施設作り（ジョシュア先生分）も近日決定見込み
 - 契約手続き：本省から配賦通知があり次第、富江理事長と上田総領事の署名による契約書を作成予定。
- 在外教育施設作りの採択事例
 - 9月末の外務省系会議で、当校のミックス数学（ジョシュア先生）が好事例として選定

決定事項

- FEMA 修繕18,000ドルの会計処理は資産計上ではなく、費用計上へ修正方針で合意
- 傷害保険料の学校負担化（全会一致承認）
- 給与制度改定の基本方針（Job Description 整備、外部比較、評価制度導入、等級・経験・評価のハイブリッド設計）を了承
- 10月に臨時理事会を開催し、給与テーブル（額面含む）ドラフトを審議

次回までの準備事項

- Job Description（14職種）ドラフト作成と給与テーブル案（時給・月給・手当）の提示
- 給与外部比較データの収集（他校アンケート配布、政府平均賃金サイトの整理）
- ファイナンシャルエイドの規模感試算（対象世帯構成、減額率別の必要財源、外部制度一覧）

- 満足度アンケート最終設計（属性設問表現の見直し、自由記述・追跡同意導入、補習校版設計）
- 保険広報原稿（加入事実の明確化、支払判断は保険会社である注意書き）

次回の第6回理事会は10月11日（土）午後5時に開催予定。

（了）